

〈論文〉

中国語を母語とする日本語学習者の作文に見られる誤用について

宇留野 健 太

札幌国際大学人文学部現代文化学科

Common Misusage in Composition by Chinese Learners of Japanese

Kenta Uruno (Department of Contemporary Cultural Studies, Faculty of Humanities, Sapporo International University)

Nowadays in China, a considerable number of students at higher education institutions are learning Japanese — and engaging a wide range of learning contents.

In this paper, we analyze misusage in composition by Chinese college students learning Japanese; we investigate common types of misusage found in their writing; furthermore, we study the samples of misusage uncovered with focus on punctuation errors.

キーワード：誤用 助詞 語彙 句読点 動詞
Keywords : misusage Postpositional particle vocabulary punctuation verb

1. はじめに

現在、中国の高等教育機関では多くの学生が日本語を学習しており、学習項目は多岐にわたり様々である。

本稿では、中国の大学で日本語を学習する大学生が書いた作文の誤用について分析する。作文において、中国語を母語とする日本語学習者にはどのような誤用が多く見られるのかについて調査する。また、それらの誤用例の中から作文における表記上の誤用に焦点を当て、それについて考察したいと考える。

2. 先行研究

中国語を母語とする日本語学習者の作文における誤用について、小堤 (2016) は、「誤用の原因としては、母語である中国語の干渉によるものが圧倒的に多いと推察される。そこで、学習者は、母語にとらわれ過ぎず、個々の日本語をイメージでとらえ、日本的な発想に基づく日本語らしい日本語を、感覚的に習得していく必要があると考えられる。」(p.129) と指摘している。

小林 (2003) は、分析方法において誤用の範囲を I 表記上、II 文法上、III 文及び文章の構成 (段落を含む) 上、IV 文体上の 4 点に定めている。さらに、この 4 点について、I の表記は a 漢字 b 語彙 c カタカナ d 拗音 e 撥音 f 促音 g 濁音 h その他、II の文法は a 助詞 b 副詞 c 接続詞 d 動詞 e 形容詞 f ナ形容詞 g 助動詞 h 名詞 i その他、III の文及び文章の構成は a 前後の矛盾 b 段落数 c 段落の不整合 d 文章構成 内容の不統一、IV の文体は a 敬体形 b 常体形 c 敬体形、常体形混合文と誤用の範囲を細分化している。

3. 調査資料について

中国の大学において、筆者が担当した授業で書かれた作文を調査資料とする。

4. 調査資料からの誤用例の抽出

4.1 誤用の項目

誤用例を分析する前に、あらかじめ誤用の具体的な項目を示しておく必要がある。そのために、一定数の作文を選び、それらの作文から誤用を抽出する。そして、どのような誤用が見られるのか、具体的な項目を示す。

4.2 誤用の具体的な項目を示すための調査対象・調査資料

誤用の具体的な項目を示すための調査対象と調査資料等について、以下に示す。

- ・大学の授業で書かれた作文
- ・大学でソフトウェアおよび日本語を専攻とする 2 年後期クラス 35 名 (日本語能力試験 N2 の合格を到達目標とするクラス)
- ・テーマ「私の故郷」
- ・作成時間 90 分 (テーマは作文を書く授業の前週に告知)
- ・文字数 400 字程度 (400 字詰め原稿用紙を使用)
- ・縦書き、文体は敬体

5. 誤用例の具体的な項目

5.1 各学習者の誤用数

対象学習者全 35 名の誤用数の内訳を以下の表 1 に示す。学習者は便宜上、出席番号で示した。

対象学習者全 35 名の誤用数の合計は、726 例であった。また、誤用数の一人当たりの平均は、約 20.7 であった。

5.2 誤用例の分類

表 1 で示した全 726 の誤用例を具体的な項目ごとに分類した。結果を以下の表 2 に示す。

誤用例は、全部で 37 項目に分類した。10 の「語彙」は、日本語として意味が通じない、または日本語として存在しない語彙を使用したことを表す。33 の「ひらがな表記」は、本来は漢字表記すべきものをひらがなで表記したことを意味する。37 の「不明」は、文全体の意味が不明なものを意味する。23 の「～という…」、24 の「～

の(ん)です」、25 の「～の時」は、一定数の誤用が見られたため、それぞれ 1 つの項目として扱った。

5.3 誤用例数

誤用例の具体的な内訳を以下の表 3 に示す。

項目ごとに見ると、助詞の誤用が 140 例で最も多かった。原稿用紙の使い方、濁音、拗音、促音、長音の表記のしかたなど、作文の書き方についての基本事項に関しては、句読点に関する誤用が目立った。

誤用例の一部を以下に示す。(下線部は各項目にあてはまる誤用部分)

- 「名詞」の誤用例
 - (1) でも、盤錦の空気は少し乾燥です。
 - (2) 鞍山はきれいな城市と 생각합니다。
- 「動詞」の誤用例
 - (3) しかし、たくさんの外国人は住んでしたいと思います。
 - (4) 故宮は清朝の皇帝住んでの場所です。

表 1 対象学習者全 35 名の誤用数

学習者	誤用数	学習者	誤用数	学習者	誤用数	学習者	誤用数
1 番	16	11 番	15	21 番	19	31 番	19
2 番	10	12 番	14	22 番	18	32 番	23
3 番	13	13 番	23	23 番	22	33 番	23
4 番	20	14 番	10	24 番	31	34 番	24
5 番	20	15 番	19	25 番	28	35 番	18
6 番	19	16 番	27	26 番	23		
7 番	17	17 番	19	27 番	14		
8 番	24	18 番	28	28 番	20		
9 番	20	19 番	28	29 番	35		
10 番	23	20 番	25	30 番	19	合計	726

表 2 誤用例の具体的な項目

1	名詞	14	語彙の選択 (ナ形容詞)	27	文末表現
2	動詞	15	語彙の選択 (副詞)	28	会話的表現
3	イ形容詞	16	語彙の選択 (接続助詞)	29	漢字
4	ナ形容詞	17	不必要な語彙	30	中国語の漢字
5	接続詞	18	不完全な表現	31	句読点
6	接続助詞	19	濁音	32	かぎかっこ
7	接続詞と接続助詞の重複	20	拗音	33	ひらがな表記
8	指示代名詞	21	促音	34	送りがな
9	助詞	22	長音	35	常体
10	語彙	23	「～という…」	36	原稿用紙の使い方
11	語彙の選択 (名詞)	24	「～の(ん)です」	37	不明
12	語彙の選択 (動詞)	25	「～の時」		
13	語彙の選択 (イ形容詞)	26	時制		

表3 誤用例数

助詞	140	イ形容詞	16	「～の(ん)です」	7
語彙の選択(名詞)	81	名詞	14	接続詞と接続助詞の重複	4
語彙	62	ナ形容詞	14	長音	4
句読点	43	語彙の選択(ナ形容詞)	13	不明	4
動詞	41	接続詞	12	「～の時」	3
語彙の選択(動詞)	37	不必要な語彙	11	ひらがな表記	3
会話的表現	25	語彙の選択(イ形容詞)	10	原稿用紙の使い方	3
不完全な表現	24	かぎかっこ	10	送りがな	2
文末表現	23	濁音	9	語彙の選択(接続助詞)	1
漢字	22	時制	8	拗音	1
接続助詞	20	語彙の選択(副詞)	7	促音	1
中国語の漢字	19	指示代名詞	7		
常体	18	「～という…」	7	合計	726

- 「イ形容詞」の誤用例
 - (5) いろいろなおもしろいな公園があります。
 - (6) でも、人口があまり多いありません。
- 「ナ形容詞」の誤用例
 - (7) 撫順は、とてもきれいな町です。
 - (8) 花はきれくて、果物はおいしいです。
- 「接続詞」の誤用例
 - (9) そこで、人口は少ないです。
 - (10) それで、阜新の人は一番いい人と思います。
- 「接続助詞」の誤用例
 - (11) 冬はとても寒いですが、夏はとても暑いです。
 - (12) 冬には、あまり寒くありませんだけど、雪がすごく多いです。
- 「接続詞と接続助詞の重複」の誤用例
 - (13) 大連は、冬はあまり寒くありませんが、でも風が強いです。
 - (14) 環境が悪くて、風がとても強くて、だから空気が良くないです。
- 「指示代名詞」の誤用例
 - (15) でも、ずっとあの私を育てきたふるさとを愛しています。
 - (16) これは沿海城市ですから、夏はあまり暑くないです。
- 「助詞」の誤用例
 - (17) 私は瀋陽に愛しています。
 - (18) 彼の作品は中国に人気があります。
- 「語彙」の誤用例
 - (19) 温州は浙江省の省会ではありません。
 - (20) 瀋陽の面積はとても大きいですから、他の城市より人口が多いです。
- 「語彙の選択(名詞)」の誤用例
 - (21) いろいろな回憶があります。
 - (22) 鞍山の天気はいいです。
- 「語彙の選択(動詞)」の誤用例
 - (23) いろいろな花を見えることです。
 - (24) 市内の交通もとても便利ですから、どこでもすぐ着けます。
- 「語彙の選択(イ形容詞)」の誤用例
 - (25) 夏は暖かいです。
 - (26) 深い歴史があります。
- 「語彙の選択(ナ形容詞)」の誤用例
 - (27) 海に近くて、いろいろな船があります。
 - (28) 瀋陽の季節の変化はとても明らかです。
- 「語彙の選択(副詞)」の誤用例
 - (29) 夏もとても暑くないです。
 - (30) 時間があれば、ようこそ营口へ行きます。
- 「語彙の選択(接続助詞)」の誤用例
 - (31) 交通について、鞍山ではバスがあります。
- 「不必要な語彙」の誤用例
 - (32) 朝と晩の頃、道が込んでます。
 - (33) 盤錦市も春、夏、秋、冬の四季があります。
- 「不完全な表現」の誤用例
 - (34) 大連は、冬はあまりませんが、でも夏は涼しいです。
 - (35) 大連は遼寧省で二番大きい都市です。
- 「濁音」の誤用例
 - (36) 私は春か大好きです。
 - (37) 大連は海に近いですから、風か強いです。
- 「拗音」の誤用例
 - (38) アイスキャンデーです。
- 「促音」の誤用例
 - (39) びくりしました。
- 「長音」の誤用例
 - (40) 交通の便が良く、地下鉄、バス、タクシがあります。
 - (41) バス、タクシ、汽車があります。

- 「～という…」の誤用例
 - (42) 筆架山も有名です。「という山」が脱落
 - (43) それに、雁蕩山はとても人気があります。「という山」が脱落
- 「～の(ん)です」の誤用例
 - (44) 今は観光地になっているのです。(文脈上、不適切)
 - (45) ここが好きなのです。(文脈上、不適切)
- 「～の時」の誤用例
 - (46) 冬の時に、雪が降ってから、山は白くなります。
 - (47) 海に近いから、夏のとき、大連はいい避暑のところです。
- 「時制」の誤用例
 - (48) 今、鴨緑江はもう丹東の一番有名な観光地になります。
 - (49) 秋になると、花がたくさん咲いて、そして実ができた。
- 「文末表現」の誤用例
 - (50) 春になると、労働公園にボタンがたくさん咲いて。
 - (51) 夏はあまり暑くありませんが。
- 「会話的表現」の誤用例
 - (52) 工場がいっぱいあります。
 - (53) 私は自分の故郷が大好きです。
- 「漢字」の誤用例
 - (54) 春と秋は温かいです。
 - (55) 夏になると、労働公園に蓮が咲いて、たくさんの観光客が訪れます。
- 「中国語の漢字」の誤用例
 - (56) 毎日、たくさんの観光客が訪れます。
 - (57) 一番有名なところは星海広場です。
- 「句読点」の誤用例
 - (58) 人口があまり多くありません、
 - (59) 大連は「星海公園」があるだけでなく。
- 「かぎかっこ」の誤用例
 - (60) 彼はよく春晚に参加します。(『　』がない)
 - (61) 錦州で一番有名なものは「古塔」です。「　」がない)
- 「ひらがな表記」の誤用例
 - (62) 老虎灘でいろいろなかいようせいぶつがあって、とても面白いです。
 - (63) そして海のがめも美しいです。
- 「送りがな」の誤用例
 - (64) 瀋陽は、春は暖いですが、風は強いです。
 - (65) 卒業したら、盤錦に帰えると思っています。
- 「常体」の誤用例
 - (66) 冬はあまり寒くない。
 - (67) 交通手段は多いが、地下鉄がありません。
- 「原稿用紙の使い方」の誤用例
 - (68) 18歳前の思い出は全部故郷と関係があります。

(縦書きにおいて算用数字で表記)

- (69) バス、タクシー、汽車があります。(原稿用紙の一番上のマスに打点)

● 「不明」の誤用例

- (70) その上に、空気は大連と比べると乾燥ですから、旱天の状態も時々があります。
- (71) 秋になると、黄金のイチョウの葉は、道路の両側の上に非常に素晴らしいなくなっています。

6. 作文における表記上の誤用について

今回の調査では、誤用例を種類別に分類したところ、文法上の誤用の他に、表記上の誤用も一定数見られた。作文を書く上での表記上のルールについては、主に作文の授業の最初の部分で導入される事項である。しかし、授業で表記上のルールを学習しても、実際に作文を添削すると、表記上の誤用が多く見受けられる。例えば就職活動の際の作文試験など、大学生は授業以外の場で作文を書く機会がだんだんと多くなっていくであろうと考えられる。まずは、作文を書く上で基本となる作文の書き方や表記上のルールを授業内でしっかりと定着させることが最も重要なことであると考えられる。そのために、実際の作文ではどのような表記上の誤用が多いのかを分析し、それらの誤用の具体例を提示することが必要である。そして、今後の作文の授業で表記上のルールを指導する際に使用できるようリストを作成したいと考える。

6.1 表記上の誤用に関する先行研究

6.1.1 小林 (2003)

小林 (2003) は、表記上の誤用について、中国語母語話者は漢字の誤用も少なく、漢字の語彙数も豊富であるが、送り仮名、用法の誤用、中国の漢字と日本の漢字の混同等が特徴としてみられ、カタカナ表記もみられたと指摘している。また、濁音については、中国語話者の作文では、誤用が大変目立ち、これらの点に注目して、誤用をした本人に気づかせなければ、誤用は減らないだろうとも指摘している。

6.1.2 小堤 (2016)

小堤 (2016) は、表記上の誤用として、常体と敬体の混用、語彙の誤用 (外来語、母語の干渉など) などについて述べている。常体と敬体の混用については、全体を敬体にする誤用が多く、中国語では、それほど明確に敬体と常体を書き分ける意識がないために発生する誤用であると指摘している。語彙の誤用 (外来語、母語の干渉など) については、日本語の中の外来語が増える中で、撥音や長音、濁音を含む外来語の誤用が発生していると指摘している。他に、文章語と口語の混用、原稿用紙のマスの明け方、中国の簡体字の使用についても言及して

いる。

6.1.3 渡辺 (2004)

渡辺 (2004) は、表記上の誤用について、次のように指摘している。

初歩的な、しかしなかなか直らない誤り

①・じっしょうかい (自己紹介)・だぶん (たぶん)・めどくさい (めんどうくさい)

②・ヘアリング (hearing)・イントワネット (internet)・メダル (medal)

①は間違った発音が表記の誤りにつながったもの、②は聞き覚えた英語読みのままに文字化したミス。清濁、長短、特殊拍は中国人学習者の弱点、カタカナ語はますます増える傾向にある。手抜きせずに、耳からだけでなく目 (文字) で確認することが大切となる。

(pp.3-4)

中国文字 (簡体字) や中国語を文に混入させる誤り

①・态 (態) 度・环 (環) 境・梦 (夢)・无 (無) 力・基础 (礎)

中国語を知らない日本人には意味が分からないか、意味を類推するかでひどい誤解は生じない。

(pp.3-4)

6.1.4 佐藤・盧 (1993)

佐藤・盧 (1993) は、表記上の誤用について、次のように指摘している。

原稿用紙の使い方

中国語では、書き出しや段落の初めは二マスあけるので、日本語の作文でもついうっかり 2 字あけてしまうようだ。

マスの使い方 で気になるのは、促音や拗音「きゃ／きょ」等を一マスの中に書く、あるいは「 」 」等の符号に一マス使用せず、文字と一緒に書く例が多くみられることである。

句読点をマス目の中央に書く学生がかなりいる。

少数ではあるが、句読点を文の最初に書く学生がいる他、句点と符号、符号と符号が重なる場合の書き方などにも問題がみられ、きちんとした指導が必要である。

(p.110)

句読点

句点を書くべきところに読点を書く学生がいる。日本語では、終止形がくるとそこで文が終わり、句点を打つ。

日本語の作文でも段落の最後の文にのみ句点を打ち、残りはすべて、つまり文の終りにも読点を打つ

学生がでてくる。

中国語の干渉で、誤用と意識せずに終止形の後も読点を書く学生がいる一方、不注意で、無秩序に誤った句読点の打ち方をしている学生もいる。いずれにしても、日本語では、文の終りをつげる終止形の後は、必ず句点であることを教えて徹底させれば、容易に正せる誤りである。

(p.111)

佐藤・盧 (1993) は、他の表記上の誤用として、符号、文字表記の誤り、送り仮名の誤り、清音と濁音の誤り、漢字の誤り、片仮名表記と外来語を挙げている。

7. 作文における表記上の誤用の具体例と傾向について

4.2 で示した通り、調査の対象としているのは、日本語を専攻する大学 2 年生である。当該大学で日本語を学習している 2 年生のクラスでは、日本語能力試験 N2 の合格が到達目標として設定されている。そのため、「文字・語彙」「文法」「読解」「聴解」といった科目は、入学時から早々と導入され、学習進度も非常に速いものとなっている。しかし、作文に関しては学習時期が 2 年生時のみであり、学習の開始時期が他の科目よりも遅い。また、学習期間も 2 年生時の 1 年間のみと非常に短いものとなっている。したがって、表 3 が示しているように、作文における誤用には、作文を書く際の基本的なルールの誤用、初級段階で学習する文法事項の誤用が多いといえることができる。

以下では、作文を書く際の基本的なルールに関係する誤用例を取り上げる。実際に作文を書く前の準備段階として、授業の際、教師はどのような点に留意してイントロダクション部分を導入すればよいのかについても考えなければならない。

7.1 表記上の誤用の用例数

表 2 で示した誤用例の具体的な項目のうち、「濁音」「拗音」「促音」「長音」「会話文的表現」「漢字」「中国語の漢字」「句読点」「かぎカッコ」「ひらがな表記」「送りがな」「常体」「原稿用紙の使い方」の 13 項目を表記上の誤用項目として取り上げる。表記上の誤用の項目と用例数を以下の表 4 に示す。

表記上の誤用例は全部で 160 例見られた。その中で句読点の誤用が最も多く、43 例であった。次に会話的表現、漢字、中国語の漢字の順となっている。漢字と中国語の漢字の誤用を合計すると、41 例あり、漢字に関する誤用も句読点と並んで多いものとなっている。今回調査した作文は敬体・縦書きで書かせたものである。敬体と常体の使い分けの誤りといったものも 18 例見られる。

表4 表記上の誤用項目と用例数

句読点	43
会話的表現	25
漢字	22
中国語の漢字	19
常体	18
かぎかっこ	10
濁音	9
長音	4
ひらがな表記	3
原稿用紙の使い方	3
送りがな	2
拗音	1
促音	1
合計	160例

また、かぎかっこの誤用も10例見られた。ひらがな表記、原稿用紙の使い方、送りがなに関しては、あまり誤用は見られない結果となった。拗音、促音は1例ずつと誤用がほとんど見られなかったが、一方、濁音、長音はそれぞれ9例、4例と比較的多くの誤用数が見られた。

以下にそれぞれの誤用項目における誤用例と特徴を示す。

7.2 句読点の誤用について

句読点の誤用については、43例見られた。以下に用例の一部を示す。

- (72) ちなみに（読点を打っていない）すぐ近くに中街と言う商店街があります。
- (73) 葫蘆島はきれいな都市だと思います、
- (74) 人口があまり多くありません、
- (75) 大連は「星海公園」があるだけでなく、
- (76) 鷹潭は電車と地下鉄がありません、
- (77) 朝陽は、夏は暑いです、
- (78) 地下鉄はもう完成しました、
- (79) 同時に、大連は遼寧の経済中心です、
- (80) また、高速道路で瀋陽と北京など行くのは（読点を打っていない）とても便利です。
- (81) 東京に似ている、

文の終わりに「。」ではなく、「、」を打ってしまう用例が多く見られた。一つの文が終わったときには、必ず「。」を使用させる指導を書かせる前に説明し、定着させる必要があると考える。「、」を使用する原因の一つとしては、例えば(77)のように、「夏は暑くて、……。」と「テ形」を使用すべきところでテ形を用いることができなかったため、文の終わりにそのまま「、」を打ってしまったと

いうことが考えられる。また、逆に「、」を打つべき箇所でも「。」を使用した例も見られた。

接続詞の後ろに「、」を打たない例は1例あった。

(80)のように、主部が長い場合は「、」を入れたほうがよい。特に主部の直後が平仮名の語である場合、読み手は読みづらい。読み手が読みやすいように、適宜「、」を使用するということが学習者に理解、定着させることが重要であると考えられる。

7.3 会話的表現の使用について

作文において相応しくない会話的表現の使用については、25例見られた。以下に用例の一部を示す。

- (82) 工場が**いっぱい**あります。
- (83) 私は故郷が**大好き**です。
- (84) **ほんと**にきれいです。
- (85) 秋は**ちょっと**寒いですが、日光は強いです。
- (86) 夏は**すごく**暑いです。
- (87) 交通はあまり便利でもなく、**まま**（「まあまあ」だと思われる）です。
- (88) **びっくり**しました。
- (89) 大連の**天気**が**大好き**です。
- (90) 海風が**ちょっと**強いです。
- (91) 秋になると、紅葉は赤色になって、**ほんと**にきれいです。

会話的表現については主に、「いっぱい」「大～」「ほんとに」「ちょっと」「すごく」といった語彙が多く見られた。会話的表現の矯正については、適宜教師が指摘する必要があるが、作文で使用する会話的表現には、ある程度決まった語が使用される傾向が見られるため、留意すべき語彙について予め表などにまとめ、準備段階で学生に提示するのも有効な手段の一つであると考えられる。

初級レベルの学習者の場合は、使用できる語彙がかなり限られてくるため、会話的表現を使用せざるを得ないという状況が考えられる。しかし、今回の調査対象となっている学習者は、日本語能力試験N2の合格を目標としており、また、学習期間も1年を経過しているという点も考慮に入れ、今回は会話的表現の使用を誤用として扱うこととした。

7.4 漢字の誤り、中国語の漢字の使用について

漢字の誤りについては22例、中国語の漢字の使用については19例、合わせて41例の誤用が見られた。以下に用例の一部を示す。

- (92) 春になると、**労働公園**にボタンがたくさん咲いて。
- (93) 夏はあまり**熱く**ありません。
- (94) 春と秋は**温かい**です。

- (95) 私は暇さえあれば、友達（書き間違い）と本を読んでいます。
 (96) また、高速道路も発達（書き間違い）しています。
 (97) 毎日、たくさんの観光客が訪れます。
 (98) 葫蘆島は沿海都市です、
 (99) また、北陵と東陵公園は有名なところです。
 (100) 一番有名なところは星海広場です。
 (101) それから、山海広場も有名なところです。

漢字の誤りについては、その文に合った適切な漢字を選択できなかった用例と、単純に漢字を書き誤った用例の2通りのものが見られた。(93)(94)のような初級レベルの段階で導入される語彙については、例えば「暑い」「熱い」「厚い」のように同音で漢字表記が異なるものを列挙し、それぞれの意味と例文を載せた補助プリントを学習者に配布する等の対策により、ある程度誤用を未然に防ぐことが可能であると考えられる。単純に漢字を書き誤った用例は、日本語には存在し、中国語には存在しない、もしくは表記法が異なる（簡体字）漢字の誤りがほとんどであった。この場合も事前に「間違えやすい漢字」の補助プリントを学習者に配布し、意識付けをさせることにより、誤用を減らすことができると考える。

中国語の漢字については、「毎」「海」「広」を中国語の漢字（簡体字）で表記する例が多く見られた。中国語の漢字についても、予め教師が学習者に注意を促したり、補助プリントを配布したりする等の対策が必要である。

7.5 常体、敬体の誤用について

今回の調査の対象となっている作文は、敬体を使用し書くという条件である。敬体で書くべき文を常体で書いた誤用は、18例見られた。以下に用例の一部を示す。

- (102) 人の生活はさらに便利になった。
 (103) 大連は、冬は寒くないが、夏は暑くない。
 (104) 暖かい春が訪れ、花が咲くが、気持ちの良い景色の都市です。
 (105) 四月、地下鉄は間もなく開通する。
 (106) 営口市は、春と秋はとても暖かいが、冬は寒いです。
 (107) 阜新の人は喜んで引き受けてくれる。
 (108) 錦州市は、すごし寒いが、夏はすごし暑いです。
 (109) 鞍山は、夏は少し暑い。
 (110) 交通手段は多いが、地下鉄がありません。
 (111) 冬はあまり寒くない。

常体を用いた誤用は、文末に現れる常体が13例、文中に現れる常体が5例であった。文中に現れる誤用は、5例全てが接続助詞「が」に前接する動詞またはイ形容詞が常体になっているというものであった。これは、接続

助詞「が」に接続する場合は、文中であっても敬体にする必要があるということを学習者が理解していない、または定着していないためであると思われる。これに関しても、作文を書く前の注意事項として学習者に事前に説明しておく必要があると考える。

7.6 かぎかっこの誤用について

かぎかっこの誤用については、10例見られた。以下に用例の一部を示す。

- (112) ちなみにすぐ近くに中街と言う商店街があります。（「」が用いられていない）
 (113) 彼はよく春晚に参加します。（『」が用いられていない）
 (114) 中国で重要な工業基地、「石炭の都」（「」の書き方が誤り）の称があります。
 (115) 瀋陽で一番有名なものは「故宮」（「」の書き方が誤り）というところなのです。
 (116) 今、瀋陽で一番有名なものは「瀋陽故宮」（「」の書き方が誤り）です。

(112)は、初見の固有名詞を「」で括らなかつた例である。(113)はテレビ番組名を『」で括らなかつた例である。

今回の調査の対象となっている作文は、縦書きという条件である。かぎかっこは縦書きの場合、」のように書かなければならないが、(114)(115)(116)は「」と横書きのかぎかっこを使用している誤用である。中国人日本語学習者は日本語を縦書きで書く機会がほとんどないであろうと思われる。今まで縦書きで書いたことがないための誤用であると考えられるので、これについても作文を書かせる前に補助プリントで説明したり、作文の手本を清書させる等の対策をする必要があると考える。

7.7 濁音、長音、拗音、促音の誤用について

濁音、長音、拗音、促音の誤用については、全部で15例見られた。以下に用例の一部を示す。

- (117) 私は春か大好きです。
 (118) 大連は海に近いですから、風か強いです。
 (119) 三方が海に囲まれでいます。
 (120) 錦州市は、すごし寒いが、夏はすごし暑いです。
 (121) 交通はあまり便利でもなく、ままです。
 (122) 交通の便が良く、地下鉄、バス、タクシがあります。
 (123) バス、タクシ、汽車があります。
 (124) 交通の便が良く、地下鉄、バス、タクシがあります。
 (125) アイスキャンデーです。
 (126) びくりしました。

濁音、長音、拗音、促音については、濁音の誤用が比較的多く見られた。中国人母語話者にとっては清音と濁音の発音上の区別が難しいためだと考えられる。清音で表記すべきところを濁音で、濁音で表記すべきところを清音で書いてしまうという両方のパターンが見られた。拗音、促音については1例ずつと、ほとんど誤用が見られなかった。指導の際には、特に濁音と長音に注意をするように促す必要があると考える。

7.8 原稿用紙の使い方について

原稿用紙の使い方の誤用については、3例見られた。以下に用例を示す。

- (127) 広さは一一〇万平方メートルぐらいです。
 (128) 18歳前の思い出は全部故郷と関係があります。
 (129) バス、タクシー、汽車があります。

今回の調査の対象となっている作文は、縦書きという条件である。縦書きの場合は引く音を表す棒線を縦に引かなければならないが、(127)は、棒線を横に引いて書いた例である。また、縦書きでは漢数字を用いるが、(128)は、算用数字を用いた例である。(129)は、「汽」を、原稿用紙の行の一番下のマス目に入る文字と同じマス目に書くべきものを次の行の一番上のマス目に表記した例である。

原稿用紙の使い方は、作文を書く前の準備段階として最も初めに導入するのが一般的だと思われる。特に原稿用紙に縦書きで書く場合には、学習者が縦書きに慣れていないということもあり、横書きに比べ、誤用が多くなるという点にも注意しなければならない。

7.9 その他の誤用について

その他の誤用として、ひらがな表記が3例、送りがなが2例見られた。以下に用例を示す。

- (130) 老虎灘でいろいろなかいようせいぶつがあって、とても面白いです。
 (131) ときどき、涼しいです。
 (132) そして海のながめも美しいです。
 (133) 瀋陽は、春は暖いですが、風は強いです。
 (134) 卒業したら、盤錦に帰えると思っています。

(130)(131)(132)は漢字表記すべき語をひらがなで表記した例である。(133)(134)は送りがなを誤った例である。

8. まとめ

以上のように、今回の調査では13種類、全160例の表記上の誤用が見られた。今回の調査では、中国の大学における中国語母語話者である日本語学習者の作文の誤用傾向の一端を示した。作文の表記上のルールは、作文を書く上で最も基礎的であり、作文の授業の最初の段階で導入される事項である。今回の調査で明らかとなった表記上の誤用を表としてまとめ、今後の作文の授業で表記上のルールを導入する際の一つの指標としたい。

表記上の誤用についてまとめたリストを以下の表5に示す。

今回は主に表記上の誤用についての分析を行ったが、今後は、今回の調査で抽出された文法上の誤用についても分析を行っていきたい。

参考文献

- 王辰寧 (2016) 「中国語を母語とする日本語学習者の使役文の誤用分析—作文コーパスをデータとして—」『熊本大学社会文化研究』14、pp.77-91
 小堤正一 (2016) 「中国人日本語学習者の作文に見られる誤用例についての一考察—25年前と現在の大学生の比較を含む—」『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』13、pp.129-134
 小林美和子 (2003) 「中国語を母語とする日本語学習者の作文分析—初級後半から中級学習者を中心に—」大東文化大学別科論集『別科日本語教育』5、pp.67-74
 佐藤修子・盧鳳俊 (1993) 「大連外国語学院日本語学部生の日本語作文に見られる誤用」北星学園大学文学部『北星論集』30、pp.107-124
 竹島奈歩 (2011) 「中国語を母語とする学習者の作文に見られる誤用分析」『同志社大学日本語・日本文化研究』9、pp.43-58
 張麟声 (2009) 「作文語彙に見られる母語の転移—中国語話者による漢語語彙の転移を中心に—」日本語教育学会『日本語教育』140、pp.59-69
 渡辺愛二 (2004) 「中国人学習者の作文に見られる誤用の傾向とその対策—学習者・授業者の視点から—」福島大学教育学部 国語学国文学会『言文』51、pp.2-12

表5 表記上の誤用リスト

誤用の種類	特徴（多かった誤用）	指導方法
句読点	・文の終わりに「。」ではなく、「、」を打つ。	・一つの文が終わったときには、必ず「。」を使用させる指導を書かせる前に説明し、定着させる。 ・読み手が読みやすいように、適宜「、」を使用することを学習者に理解、定着させる。
会話的表現	・「いっぱい」「大～」「ほんとに」「ちょっと」「すごく」といった語彙の使用が多い。	・留意すべき語彙について予め表などにまとめ、準備段階で学生に提示する。
漢字 中国語の漢字	・文に合った適切な漢字を選択できない。 ・単純な漢字の書き誤り ・「毎」「海」「広」を中国語の漢字（簡体字）で表記する。	・同音で漢字表記が異なるものを列挙し、それぞれの意味と例文を載せた補助プリントを学習者に配布する。 ・「間違えやすい漢字」の補助プリントを学習者に配布する。 ・誤用の多い中国語の漢字をまとめ、補助プリントを配布する。
常体（敬体で書くように指示があった場合）	・接続助詞「が」に前接する動詞またはイ形容詞が常体になる。	・接続助詞「が」に接続する場合は、文中であっても敬体にする必要があるということを事前に説明する。
かぎかっこ	・初見の固有名詞を「」で括らない。 ・テレビ番組名等を『』で括らない。 ・縦書きの場合、一のように書かなければならないが、「」と横書きのかぎかっこを使用する。	・補助プリントで説明したり、作文の手本を清書させる等の対策をする。
濁音・長音 拗音・促音	・濁音の誤用が比較的多い。清音で表記すべきところを濁音で、濁音で表記すべきところを清音で書く。	・特に誤用の多かった濁音と長音の指導を重点的に行う。
原稿用紙の使い方	・縦書きの場合は引く音を表す棒線を縦に引かなければならないが、棒線を横に引く。 ・縦書きでは漢数字を用いるが、算用数字を用いる。 ・「、」を、原稿用紙の行の一番下のマス目に入る文字と同じマス目に書くべきものを次の行の一番上のマス目に表記する。	・縦書きは横書きより原稿用紙の使い方の誤りが多くなると考えられるので、授業の最初の段階で補助プリントを配布する。 ・作文を書かせる前に、縦書き、横書きでそれぞれ清書（書き写し）の練習をさせる。
ひらがな表記 送りがな	・漢字表記すべき語をひらがなで表記する。 ・単純な送りがなの書き間違い、あるいは正しい送りがなの書き方が定着していないことによる誤り	・新語彙の導入の際、漢字表記で学習した語（特に名詞）は漢字で書くよう、事前に指導する。 ・辞書の使用を徹底させる。

